

全国在日外国人教育研究集会

大阪大会



日程 ■ 2015年8月7日(金)～8月9日(日)

会場 ■ 大阪市立生野区民センター・大阪府立桃谷高等学校 他

主催 ■ 全国在日外国人教育研究協議会

■ 第36回全国在日外国人教育研究集会・大阪大会 現地実行委員会

全国在日外国人教育研究協議会会長 笹川俊春

全国各地から大阪にご参集のみなさまに主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。大阪は「第一回在日朝鮮人教育研究全国集会」が開催された地であり、全外教の前身である全朝教結成に向けて、差別のない学校・地域・社会の実現をめざし、在日コリアンの子どもたちの進路を保障したいとの強い思いを持って全国各地から教職員が集った地でもあります。そのような大阪の地で第36回全国在日外国人教育研究集会・大阪大会を開催できますことは、私たちにとって大きな喜びです。まずは、大会の開催にあたってご尽力をいただいた地元実行委員会のみなさまに深く感謝申し上げるとともに、ご後援をいただいた大阪府や大阪市、大阪府教育委員会や大阪市教育委員会をはじめとする後援諸団体のみなさまに心からお礼を申し上げます。

さて、私たちは今年の第35回全国在日外国人教育研究集会・広島大会全体会のシンポジウムにおいて、パネリストによる部落差別発言を看過してしまうという差別事件を起こしてしまいました。この事件については基調で報告するとともに、その総括を全外教通信136号に掲載しております。私たちはこのことを深刻に受け止め、深く反省するとともに、今後二度とこのような差別事件を起こさないために、これまでも増して組織を挙げて差別と闘うことをここに表明したいと思います。そうした意味で新たな決意のもと、全外教運動発祥の地とも言うべき大阪で新たな一步を踏み出せたことは大いに意義あることと考えます。

今年は「戦後70年」でもあります。さまざまな場面でさまざまな人々が「戦後70年」に言及しています。この機会に、少し立ち止まって、「戦後」とはいったい何なのか、いつまで「戦後」と呼び続けるのかといった根本的な問題を考えてみるのも意味のあることではないでしょうか。とりわけ政権が発する「戦後70年」という言葉の意味するところを批判的に検討することは将来を見誤らないためにも重要です。考えてみると私たちは「今」という時代を表現する言葉、つまり、戦後を画する言葉を持っていないことに気づきます。だからこそ、戦後を終わらせ、新たな戦前にしたいと考えている人々は「戦後レジームからの脱却」を声高に叫ぶのです。「戦後」を70年で終わらせたうえで、「未来志向」というロジックを使って過去を封印し、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持」（日本国憲法前文）するのではなく、力と力の対峙によってこそ国家の存立を保障できると繰り返し主張しています。しかし、力と力の対峙によって外部の他者に向けられる力のベクトルは、日本や日本人というアイデンティティを人々に喚起するとともに、マイノリティという内なる他者を創り出し、「日本人ではない」という形でその存在を否定し、マジョリティの意識を排除へと向かわせることとなります。ヘイトスピーチや「ネトウヨ」の言動はそうした否定と排除が極端に肥大化し、憎悪と自己愛という感情を伴って現象化したものではないでしょうか。こうしたレイシストの行動はそれを暗黙のうちに受け入れているサイレントマジョリティの存在を想起させます。私たちはそうしたサイレントマジョリティに私たちの思想を具体的な実践として届けることが必要です。その意味で全外教全国研究集会は私たちの存在をアピールする一つの機会です。ここに集うことの意味を確認したいと思います。

私たちの前には、「日本人ではない」という形で自らの存在を否定されている在日外国人の子どもたちがいます。その子どもたちに向けて自らの実践を通して、「あなたはあなたであっていい」という言葉を、存在そのものを肯定する言葉として届けましょう。生きることは何かの手段ではなく、生きることそのものに価値があることを伝えましょう。私たちは常に自らの実践において自らの生き方を問われています。全外教全国研究集会の場が全国各地で日々行われている実践を交流し、また、優れた実践に学び、自らの実践を高める場になることを願っています。